

塩見岳

2012年12月29日(土)~31(月)

リーダー：廣瀬(記) メンバー：横嶋、横谷、高木

●12月29日 晴

08:15 ゲート

09:15 塩川小屋

11:30 尾根取り付き

17:30 三伏峠

飯田は一面の銀世界。

ゲートまでは入れたものの、チェーンが無いと脱出困難。

ゲートは、塩川小屋手前1時間で、すぐ手前に10台ほどの駐車スペース有り。

林道崩壊地は大規模で、上部を気にしながら土砂をトラバースする。大変危険。

塩川小屋で積雪10cm程、薄っすら残ったトレースを辿る。

尾根に乗り、樹林に入ると意外に雪は少ない。

尾根の出だしは岩と急斜面で、ロープの張られた場所もあり、ちょっと危険。

14時前に北岳まで縦走予定の単独の登山者が追いついてくる。さすがに荷物が巨大。

標高2000mを超えると、かなりの積雪で、ワカンでのラッセルとなる。

鳥倉林道分岐より上部は深いところで80cm程の雪。

100歩交代のラッセルで、暗くなる前に三伏峠に到着。

我々の到着後、鳥倉林道から2パーティーが来る。

●12月30日 雪

07:00 三伏峠

09:30 本谷山

11:30 三伏峠

朝から雪

先行した4人パーティーのトレースを使い前進。

彼らには本谷山への登りで追いつき、ラッセルを代わるが、モナカ雪で大苦戦。

本谷山到着時、雪も強くなり、トレース消失時に下山が難しくなると判断し引き返す。

南からの風で気温が高く、雪は湿り、装備はベチャベチャで、その日は下山を諦め三伏峠に泊まる。

●12月31日 晴

05:00 三伏峠

07:30 尾根取り付き

08:30 塩川小屋

09:15 ゲート

寒冷前線が通過し、気温は下がっている。

朝は小雪が舞っているものの、その後は晴れ。

トレースは大方埋まり、前進していたら31日下山は困難だったかもしれない。

尾根の危険箇所はアイゼンで通過。

ゲートから大鹿村集落までは、除雪、融雪がしっかりされておらずアイスバーン。
チェーンを着けてのヒヤヒヤ運転でどうにか下界へ。

飯田松川の清流荘で温泉に浸かろうかと思ったら、定休日。
ひまわりの湯に行く。

帰り、津具から県道80号を使い151号に抜け、三遠南信道を使うルートを選択。
時間的なアドバンテージはともかく、設楽ルートより道のクネクネ度合いは少ない。（横嶋談）

以上